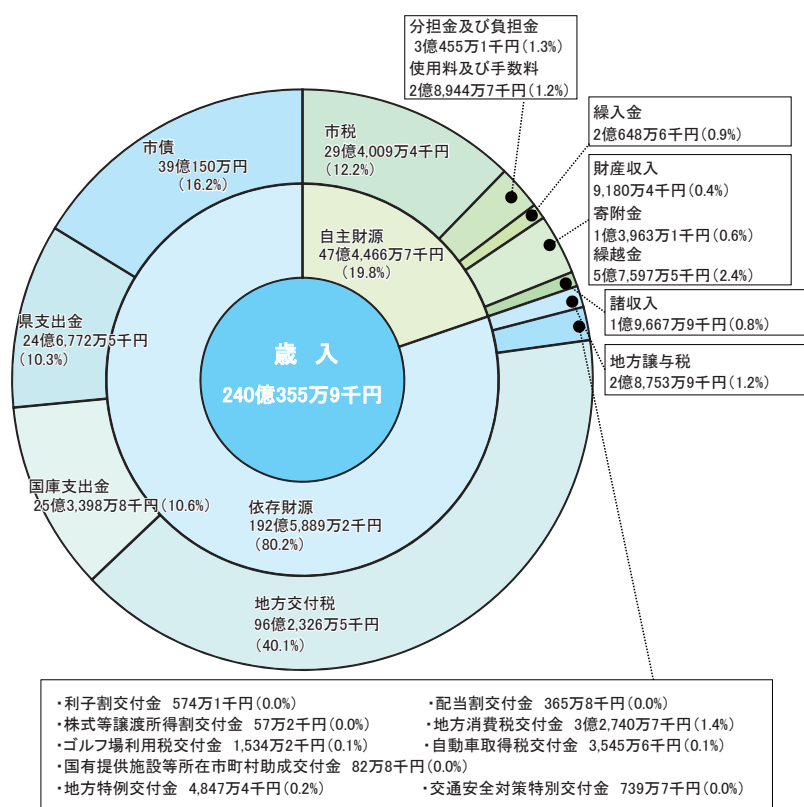


の決算を公表します

市民の皆様になめていただいた税金や、国・県からの補助金などの歳入は、「活力に満ち、心豊かでいつも夢と希望のもてる、元気な曾於市の創造」を目指して、私たちの生活をよりよくするために様々な形で使われています。

このたびの11月臨時議会において、市の平成23年度決算が認定されましたので、公表します。



歳入関連用語解説

自主財源

市税をはじめ、使用料や手数料など市が自主的に収入するお金

依存財源

地方交付税や国・県支出金など国や県から交付されるお金

使用料及び手数料

市の施設を使ったり住民票などの交付に手数料として支払うお金

繰入金

各種基金の取り崩しによって繰り入れられたお金

財産収入

市の持つ財産を貸したり売ったりして得られたお金

分担金・負担金

事業のための受益者分担金、保育所保護者負担金、老人ホーム入所負担金など受益に伴って市に納入されるお金

地方交付税

所得税など国が徴収した税金の中から市人口や税収などの状況に応じて交付されるお金

市債

市の借金のこと。大きな事業を行うため国や金融機関から借り入れるお金

国庫・県支出金

事業を行うために、国や県から交付されるお金

地方譲与税

国が徴収した自動車重量税などから配分されるお金

一般会計は収入・支出とも増加

市の会計は「一般会計」、「特別会計」、「企業会計」に分かれています。

一般会計は、行政を運営するために必要である基本的な収支を管理している会計です。

収入は240億355万9千円、支出は233億842万2千円でした。

歳入

歳入の大部分は国や県などに頼るお金で依存財源（80・2%）とよばれるものです。その中でも、市が一定水準の行政サービスを保つために交付される「地方交付税」が全体の40・1%を占めており、次いで、建設事業等に使われる「市債」が、16・2%となっています。国からの補助金等の「国庫支出金」は10・6%、県からの補助金等の「県支出金」は10・3%となっています。道路整備や建物等の建設事業である投資的業務については、緊急度や効果を十分に考慮し、合併特例債や過疎債などの有利な市債の発行に努めております。

市が自らまかなえるお金である自主財源は、19・8%となっていますが、皆様に納めていただいた「市税」は12・2%を占めています。

歳出（性質別）

歳出を、使った性質別に見てみると、「人件費（14・0%）」、「物件費（10・2%）」及び「扶助費（14・8%）」等の消費的経費が全体の47・5%を占めています。「普通建設事業費」及び「災害復旧事業費」の

平成23年度曾於市

平成23年度に実施した主な建設事業

- ・ 財部中学校校舎等改修整備事業 3億7千万円
 - ・ 大隅農産加工研修センター整備事業 2億1千万円
 - ・ 財部地区宅地分譲整備事業 1億7千万円
 - ・ 健康増進施設整備事業 1億5千万円
 - ・ 市道及び排水路整備事業 12億4千万円
 - ・ 市営住宅建設事業 1億9千万円
 - ・ 地域振興住宅建設事業 2億1千万円
 - ・ 曾於消防署建設事業 3億4千万円
 - ・ 有機センター設備改修事業 1億4千万円
 - ・ 末吉総合センター設備改修事業 7千万円
 - ・ 山中貞則顕彰館建物等購入事業 7千万円
 - ・ 市単独土地改良事業 7千万円
- (1千万円以下は四捨五入)

歳出関連用語解説

消費的経費

経費の支出効果が、当該年度又はきわめて短期間で終わるものに使われたお金

投資的経費

建物や道路等の建設に使われたお金

人件費

職員や市長、副市長、教育長の給与、市議会議員等の報酬として使われたお金

公債費

市債返済に使われたお金

扶助費

児童手当や生活保護、障がい者福祉、高齢者福祉等に使われたお金

普通建設事業費

建物や道路等の建設に使われたお金

物件費

委託料や使用料、光熱水費、消耗品費、臨時職員等の賃金、修繕費などに使われたお金

補助費等

消防組合や清掃組合等の運営、各種団体等への負担金や補助金、事業の普及や振興等の補助に使われたお金

繰出金

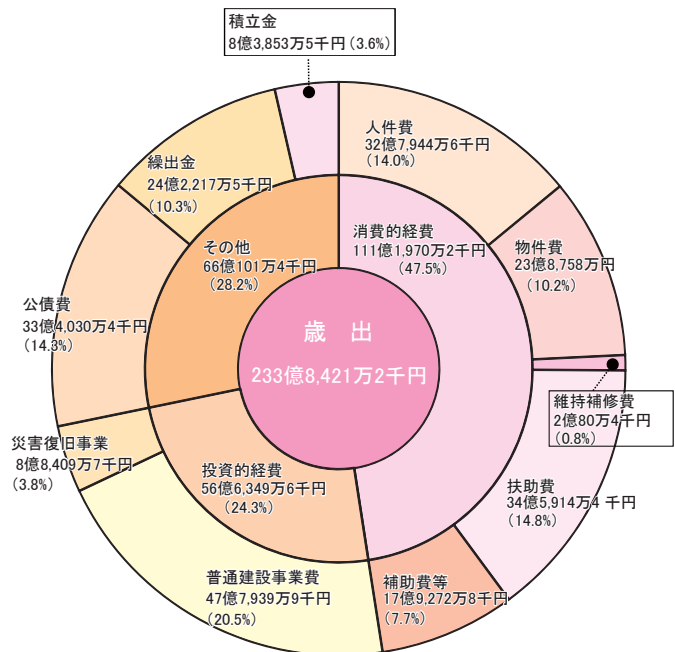
特別会計（国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険、公共下水道事業、生活排水処理事業）へ支出したお金

積立金

各種事業を行うために貯金したお金

維持補修費

施設や道路等の修繕に使われたお金



平成23年度会計別決算状況

(千円以下四捨五入)

会計		歳入決算額	歳出決算額
一般会計		240億355万9千円	233億8,421万2千円
特別会計	国民健康保険	61億7,976万1千円	61億1,729万8千円
	後期高齢者医療	4億7,641万5千円	4億7,454万2千円
	介護保険	47億632万2千円	44億7,101万9千円
	公共下水道事業	3億6,280万9千円	3億5,455万3千円
	生活排水処理事業	9,844万3千円	9,665万8千円
水道事業会計	(収益的)	5億6,029万2千円	4億6,513万円
	(資本的)	2,100万円	2億4,709万4千円
合計		364億860万1千円	356億1,050万6千円

(資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額は、過年度分損益勘定留保資金や地方消費税資本的収支調整額等により補てんしました。)

投資的経費が24・3%、また、国民健康保険や介護保険等の特別会計の運営に対する繰出金が10・3%、市債の元利償還金である公債費が14・3%となっています。

普通建設事業費は、47億7939万9千円と全体の20・5%を占めています。道路や学校の施設整備などに関する支出で、市民生活と密接に関連した社会基盤の整備に使われています。

全会計の決算の状況は、次の表のとおりです。

曾於市のお金の使われ方

平成23年度はどのようにお金を使ったのでしょうか。ここでは目的別に前年度と比較しながら紹介します。

議会費

○決算額 2億3,318万8千円
議会の運営に要した経費です。前年度と比較して4,997万5千円の増となっています。

総務費

○決算額 28億7,148万3千円
庁舎や財産の管理、企画費や選挙費、戸籍、職員管理等市政全般の管理的な事務事業に要した経費です。前年度と比較して1億8,576万円の減となっています。

民生費

○決算額 65億2,732万4千円
子育て支援や高齢者・障がい者など福祉関係全般の事業に要した経費で、子どもから高齢者まで安心して暮らせる福祉のまちづくりに使われています。前年度と比較して2億4,127万9千円の増となっています。

衛生費

○決算額 14億3,175万5千円
保健衛生や環境等、健康で衛生的な生活環境を送るための事業に要した経費です。前年度と比較して1,322万3千円の増となっています。

労働費

○決算額 786万6千円
雇用促進や労働者福祉施設の管理に要した経費です。前年度と比較して342万7千円の増となっています。

農林水産業費

○決算額 25億4,958万5千円
農林水産物の生産振興のための事業に要した経費です。前年度と比較して3億2,182万5千円の減となっています。

商工費

○決算額 1億9,608万円
商工業の振興及び中小企業・観光振興のための事業に要した経費です。前年度と比較して1,463万7千円の増となっています。

土木費

○決算額 24億5,364万1千円
道路、橋、河川及び公園等の整備のために要した経費です。前年度と比較して3億8,145万5千円の増となっています。

消防費

○決算額 10億1,477万2千円
火災及び風水害等の災害から市民の生命と財産を守るための事業に要した経費です。前年度と比較して2億9,736万9千円の増となっています。

教育費

○決算額 19億269万7千円
学校教育の充実や生涯学習、芸術文化及びスポーツ等の振興のために要した経費です。前年度と比較して2億4,329万6千円の減となっています。

災害復旧費

○決算額 8億8,409万7千円
前年度と比較して7,807万5千円の増となっています。

公債費

○決算額 33億4,030万4千円
市債の元利返済に要した経費です。前年度と比較して2億3,686万6千円の増となっています。

歳出合計額

233億8,421万2千円

○決算額 1億9,608万円
商工業の振興及び中小企業・観光振興のための事業に要した経費です。前年度と比較して1,463万7千円の増となっています。

主な事業

商品券発行事業・商工会運営補助事業・工場設置等補助事業・観光関連イベント助成事業

主な事業

市道維持補修事業・市道新設改良事業・交通安全施設整備事業・都市公園維持管理費・市営住宅建設事業

主な事業

曾於消防署建設事業・消防防災施設整備事業・大隅曾於地区消防組合負担金

主な事業

財部中学校校舎改築事業・小学校耐震改修事業・青少年育成事業・文化振興事業・生涯学習推進事業・スポーツ大会開催事業

主な事業





公共土木施設災害復旧事業・農地及び農業用施設災害復旧事業

主な事業

農業後継者育成対策事業・園芸振興事業・環境保全型農業推進事業・畜産振興事業・農地整備事業・市有林管理費・緊急間伐促進対策支援事業・林道整備事業















曾於市民一人当たりで計算すると、市税を約7万4千円負担していただき、約59万円をサービスしています。

市民1人当たりの市税負担額 総額 73,569円	
市民税 26,285円 	固定資産税 39,187円 
軽自動車税 3,215円 	たばこ税 4,882円 

平成24年4月1日現在の住民基本台帳人口(39,964人)で、市民一人当たりで換算してみます。歳入のうち「市税」は市民一人当たり73,569円の負担となりました。内訳は、全体の53.3%を占める「固定資産税」がトップで39,187円、以下「市民税」が26,285円(35.7%)、「市町村たばこ税」が4,882円(6.6%)となっています。

次に、歳出を目的別にみてみます。市民一人当たりに使われるお金は、総額で585,132円と

市民1人当たりに使われるお金(目的別) 総額 585,132円			
議会費  5,835円	総務費  71,852円	民生費  163,330円	衛生費  35,111円
労働費  197円	農林水産業費  63,797円	商工費  4,907円	土木費  61,396円
消防費  25,392円	教育費  47,610円	災害復旧費  22,122円	公債費  83,583円

なりました。最も多いのが「民生費」で163,330円、次いで「公債費」が83,583円、「総務費」が71,852円、「農林水産業費」が63,797円となっています。皆さんから納めていただく市税と、市民サービスに使われるお金では一人当たり51,111円、56,330円の差があります。

この不足額の大部分が「地方交付税」や国・県からの支出金、市債などでまかなわれることとなります。

曾於市を一般家庭にたとえてみると

市の平成23年度一般会計歳入歳出決算額を、年収500万円の一般家庭の家計簿に置き換えてみました。給与収入(市税)など家族で稼いだお金だけでは支出の全てをまかなえず、親からの援助(地方交付税や国県支出金)や借金が必要な状況にあります。また、今後、医療費(扶助費)は、増加するものと見込まれるので、食費(人件費)や光熱水費(物件費)等を切りつめるなど、努力しなければなりません。

収 入		金 額	構 成 比
項 目			
自主財源	給料 (市税)	61万円	12.2%
	パート収入やアパートの家賃収入等(使用料手数料、雑収入等)	21万5千円	4.3%
	預金の取り崩し(繰入金)	4万5千円	0.9%
	前年度からの繰越金(繰越金)	12万円	2.4%
	親からの援助(地方交付税、国県支出金等)	320万円	64.0%
依存財源	借金(市債)	81万円	16.2%
合 計		500万円	100.0%

※()は、決算上の区分を表しています。

支 出		金 額	構 成 比
項 目			
食費(人件費)		68万2千円	14.0%
光熱水費、日用雑貨(物件費)		49万7千円	10.2%
医療費(扶助費)		72万1千円	14.8%
ローンの返済(公債費)		69万6千円	14.3%
子どもへ仕送り(繰出金)		50万2千円	10.3%
家の新築増改築費、自動車等の購入(投資的経費)		118万4千円	24.3%
自治会費、サークル費(補助費等)		37万5千円	7.7%
定期預金(積立金)		17万5千円	3.6%
家などの修理(維持補修費)		3万9千円	0.8%
合 計		487万1千円	100.0%

平成24年度への繰越金〔収入－支出〕12万9千円